

2026秋
開催決定

ブラジル文化を体感！参加型フェスティバル

Matsuri Crossing 2026 — Kyoto × Brazil —

@東本願寺 お東さん広場

再びつながる。京都で。祭りで。

日本からブラジルへ、そして京都へ。

海を越えた文化が、祭りで出会う。

一般社団法人 公共事業研究開発

B r a z i l

K y o t o

ブラジル文化を体感！参加型フェスティバル Matsuri Crossing 2026 -Kyoto × Brazil-

● 日程（候補）：2026年11月6日(金)、7日(土)、8日(日) 10:00-20:30

● 会場：お東さん広場（東本願寺市民緑地）



京都駅から徒歩5分の好立地！



実施体制

主催：Matsuri Crossing実行委員会

事務局：一般社団法人公共事業研究開発

企画協力：真宗大谷派（東本願寺）

株式会社ザ・セブンシーズ、アーティスト・研究者

後援：駐日ブラジル大使館、ペルナンブーコ州政府、

レシフェ市、京都府、京都市、西日本旅客鉄道株式会社

地域連携：地元商店街、おひがしさん門前未来プロジェクト

2023年、東本願寺の門前に整備された「市民緑地」。都市公園として憩いの場となる他、イベント会場にも多数活用される。

京都駅から徒歩5分の好立地であり、地域住民だけでなく観光客、留学生、外国人就労者など様々なバックグラウンドを持つ人たちが交差する場所。

歴史的建造物を背景にして、街なかにぽっかり開いた“特別空間”が通る人たちのわくわく感を引き出す。



東本願寺前の「門前エリア」に集まる寺、事業者、住民、行政が連携し地域の魅力を再発見・発信するプロジェクト。
2021年発足。

今、海外でアツい盆踊り「マツリダンス」を逆輸入。 多国籍プログラムを体験し、交流が生まれる場づくり。

What's
マツリダンス?



日系ブラジル人コミュニティで生まれた「マツリダンス」。日本の盆踊り文化がブラジル文化と融合して発展。伝統的な盆踊りをモチーフにした、誰でも簡単にできる振付をJ-POPに合わせて踊る。ステージ上のダンサーと共に会場中の参加者が一緒に踊ることで、老若男女問わず周囲の人との一体感を感じられることが大きな魅力。同様の「進化系盆踊り」がハワイやロサンゼルス、マレーシアなどでも展開され、日系移民と現地住民を繋ぎ、日本文化を継承していくと共に地域コミュニティの結束を深める役割を果たしている。

Why
マツリダンス?



現在の東本願寺門首はブラジル国籍であり、宗教や文化の国際化を象徴している。多国籍化・国際化する京都において、日本文化の良い点がピックアップされ、外国人ウケのよい形に作られたマツリダンスの紹介は多数の興味を惹くと考えられる。盆踊りを体験したことのない世代の日本人にとっても自国文化を知るきっかけになる。

交流が生まれる場
ってどんな?



単なる異文化紹介でなく、移民の歴史や文化の融合を知ること、多国籍化する京都の町づくりを考える場。



マツリダンスの発祥国に限定せず、各国のフード屋台やワークショップを提供し、多文化に触れる場。



スマホを通じて人生を体験しがちな現代において、みんなで踊るという身体的体験を通して人と繋がる場。

マツリダンス×お東さん広場

年齢・国籍・文化を越えた一体感から顔が見える地域づくりへ。



京都駅から徒歩5分の「お東さん広場」は、地元住人や周辺ホテル・店舗従事者をはじめ、観光客や留学生、近頃は外国人就労者も増加し多国籍化・国際化が著しいエリア。

しかしながら、それぞれの目的が異なるためすれ違うだけの関係であり、イベントにおいて【イベントー参加者】の交流は生じてても【参加者同士】の交流は生じにくいのが現状。

近くにいるのに、顔の見えない関係

【不安感・無理解・誤解・困難感・疎外感】が生じやすい状況。お互いのことがわからないから、要望を伝え合うことができない。困りごとやニーズが拾われにくい。ビジネスチャンスが見えにくい。魅力が伝わりづらい etc



交流のタッチポイントを創出

「マツリダンス」のような文化・国籍・世代を越えた参加型の体験をイベントのメインに持ってくることで、初めて【横の人の存在】が意識できる！



一過性イベントでなく顔のわかる関係を日常へ

- 観光ニーズの把握→事業化・地域観光促進
- 住民と在日外国人の交流→地域防災・自治会への参加促進
- 地元商店と観光産業の接点→相互連携・観光資材の活用



参加&交流型

マツリダンス&盆踊り講習会

日本の盆踊りやマツリダンスの背景を教わると共に、踊り方ワークショップを開催。



トークセッション

「祭り」をテーマにした日本×ブラジルのカルチャートークセッション。
多国籍な視聴者の参加歓迎。



クイズ&ゲーム

子ども〜大人まで参加できる世界の国々を知るクイズや、国際交流ゲーム。



浴衣着付け体験

浴衣着付け体験や、海外でのアレンジ紹介、各国の民族衣装紹介など。

体験型



料理ワークショップ&試食会

イベント協力国や京都の郷土料理教室や在日外国人を対象とした日本料理教室。

参加&交流型



マツリダンス

from ブラジル

日本の盆踊り

進化系盆踊り

ハワイ、ロサンゼルスetc



鑑賞型

ライブステージ

ブラジル伝統芸能パフォーマンス

(サンバ、カポエイラ)

地元バンド、海外ゲスト

地元高校生+留学生コラボ



ワールドフードマルシェ

- ・ブラジル料理やハワイ、アジアなど各国料理屋台。
- ・京都の料理学校と留学生による創作料理出店。

関連国・自治体・観光局
国際交流団体による出展

イベントへ協力いただいた国々や京都府、京都市など自治体、観光局によるPRブース。国際交流団体の紹介。

スポンサー出展

- ・旅行会社、航空会社によるプロモーション。
- ・食品メーカーや小売店による輸入食材や地元食材の販売。
- ・サステナブルなモノ・コトの出店。

従来型「マルシェとライブ」の一方向イベントから・・・

➡ 参加&交流型コンテンツを増やし、コミュニケーションが生まれるイベントへ！

相川七瀬さん参画決定！！



相川七瀬さん



2025年6月に日本外務省の委嘱を受け、日本ブラジル友好交流親善大使として、サンパウロで開かれた日系人団体主催のマツリダンスイベントに出演。デビュー曲「夢見る少女じゃいられない」はマツリダンスの定番楽曲として人気を博している。

企画立案のためのアドバイス

ブラジル親善大使&マツリダンスのディーバとして、日本とブラジルの結びつきを象徴する相川七瀬さんの企画参加や広報面での協力。

イベント当日の出演

イベント当日にはトークセッションやマツリダンスのステージなどを想定。相川七瀬さんのステージ出演も。

みんなをつなげるシンボルに

プロジェクトの実現には駐日ブラジル大使館や東本願寺、京都府・市、スポンサー企業などの多くの方の協力と協調が不可欠。それぞれの関係性を確実かつ円滑なものにするための応援。

想定効果

6

1

門前エリアにおける
地域経済・地域観光
の活性化



東本願寺と共に発展してきた周辺地域「門前エリア」は昔ながらの商店街や仏具店、伝統工芸の工房などが連ね、京都特有の町並みが広がるエリア。有名スポットへの観光が集中する中、地域の特色を活かした町歩きガイドツアーなどを宿泊事業者と地元住民や店舗が協力して開催することで、地域活性化に繋がり、地域経済の循環が生まれる。

2

「世界の文化の受け皿」
「京都の文化芸術の発信」
の拠点へ



国籍や文化を越えて参加者同士が一体となれるイベントを開催することで、今後も多国籍文化の受け皿機能を果たす土壌を作り、産業との連携へも繋いでいける。
受け入れるだけでなく、京都の文化芸術やアーティストを発信する拠点としても、博物館や美術館とは違ったオープンスペースだからこそ、多角的表現が実現できる。

3

異なるコミュニティ同士
をつなぐ観光町づくりの
モデル構築



既存の「おひがしさん門前未来プロジェクト」が行っている、地元商店や企業、観光産業、寺、自治体が共同して行う地域づくりは全国的にも大変珍しい。
京都駅に集まった観光客がこのエリアへ徒歩移動することは、京都駅発の公共交通の混雑解消にもなり、観光と地域文化が混ざり合う町づくりのモデルを構築することができる。

京都駅前の好立地を活かし 文化×観光×産業 が連携できる土壌へと。
新たな観光プロモーション・多国籍文化交流を促進。

イベント開催に向けての検討課題



参加者の集客と動員 ▶▶

盆踊りは「輪に加わる」ことで成立するため、観客でなく「参加者」をいかに増やすかが重要

必要となる準備・対策

- 地元住民、観光客、留学生、外国人就労者など多様な層に向けた広報戦略
- 京都駅周辺の宿泊施設や観光案内者等と連携した告知、誘導の仕組みづくり
- SNSや動画コンテンツを活用した事前告知、参加促進（踊り方の紹介など）



協力団体・出演者開拓 ▶▶

多文化コンテンツの充実には、地域の文化団体や国際交流団体との連携が不可欠

必要となる準備・対策

- 盆踊り文化に関心のある国や団体への個別アプローチ
- 出演者（音楽、踊り、伝統芸能）の確保とスケジュール調整
- マツリダンスの監修、演出を担ってくれる専門家の確保

★駐日ブラジル大使館のご協力賜り済み。

ブラジル伝統音楽である「マラカトゥ」グループを現地から誘致する提案をもらっている。



文化的な配慮と尊重 ▶▶

宗教施設の門前という立地に配慮した演出や表現の調整が必要

必要となる準備・対策

- 各国文化の紹介におけるステレオタイプや誤解の回避
- 参加者の宗教、食習慣、言語などへの配慮



地域による参画 ▶▶

地域の文化資源として継続的に育てて生ける可能性の模索

必要となる準備・対策

- 近隣住民・店舗、宿泊施設、国際交流団体等との連携
- 既存の地域団体との接続
- 来場者、参加者の声や改善点を拾い上げる仕組みの構築